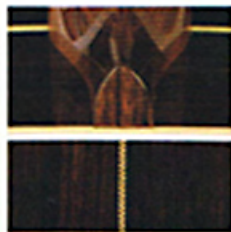


JOHN S. KINNARD

Dreadnaught Studio/Rosewood

1970年代よりギター製作/リペア業に携わり、93年よりテイラー・ギターのボディ加工部門に約4年間在籍。そして98年より、デル・アルテで工場長に就任し、現在も継続しているという、ジョンS.キナード。そんな幾多のブランドで培われたキャリアを持つ彼が、昨年より自身の名を冠したブランドを立ち上げた。ルックスこそトラディショナルなスタイルを継承しているが、コンテンポラリーなアイデアを随所に採り入れているのが特徴。やや薄めのグリップを持つネックだが、強度を確保すべく2ピース構造に設計。内部構造も、弱いタッチで弾くプレイヤーにも楽器本来が持つ鳴りが得られるよう工夫したという“トーン・ブレイシング”を採用している。これは伝統的なXブレイシングを土台にしながらも、低音弦側の力木の質量を下げているという。



SPECIFICATIONS

- ボディ・トップ: 日-ロビアン・スプルース単板
- ボディ・サイド&バック: インディアン・ローズウッド単板
- ネック: ホンジュラス・マホガニー
- 指板: エボニー
- ブリッジ: エボニー
- ペグ: ニッケル製ウェハリー
- フィニッシュ: ラッカー
- ネック・ジョイント: ダブテイル
- トラスロッド: 2ウェイ・アジャスタブル
- ナット幅・スケール・ボディ幅: 1.75"・25.4"・15.5"
- 価格: 609,000円
- 問い合わせ: センブリジャパン ☎06-6441-2263

ARTIST'S VOICE

A ビンテージ・マーティンの乾いた音の感じが表現できています。ネックのグリップが幅広/薄いタイプで、そのネックの質量が音に表われています。1音1音はパンチがあり、迫力のある音が出ているんだけど、音の分離が良いせいかな、すっきりして聴こえる。弱くがローンと弾いた時でも、ソリッドな芯のある音がしますね。

O 弱いタッチで弾くと、とても心地よく響きますね。力強く弾くタイプよりは、繊細に弾くプレイヤーに向いているのでは。ネックも薄くて、現代風のシェイプをしているし、弱いタッチで持ち味が出るから、女性にも扱いやすいと思いますよ。

A あとエレキをメインにしているギタリストにいいかもしれませんね。弦高をかなり低くセッティングしても、このギターならしっかりした音になるでしょう。今日試奏した10本の中でそういうセットアップができそうな唯一のギターかもしれません。

O だったら弦高にこだわるオグちゃん(小倉博和)にいいかも(笑)。ルックスはマーティンっぽいけど、サウンドはそれほど羨んでいる印象はないですね。

A バランス重視の録音向けな音設計なのでしょう。見た目はドレッドノートが好きだけど、扱いやすくて000を好んで弾いているプレイヤーにいいかもしれませんね。



ポピュラーなマテリアルを採用して圧倒的な個性を生む
注目ニューブランド

John S. Kinnard

STUDIO D
609,000 YEN (税込)



鳴りとは

一般に鳴りを追求するギターは、薄いトップに強い力木を持たせ、大きな振動を与えることで豊かな音量を得る。

確かに、プレイヤーやその近くにいる者には大きな音で鳴っているように感じる。



ジョン・S・キナーデ

かつて大衆メーカーでギターやマンダリンの製作を担当して来たほど自身のギターを製作と研究を重ねる。現在はギターやマンダリン製作の最高責任者としてブランドギターを製作。

多岐にわたる他国でのイェン現生産を始めたのをきっかけに専任し、自身のブランド名を打ち立て、サンギタやさまざまなジャンルで製作を開始した。

